

琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

電子号外

2019年(令和元年)

7月4日(木)

発行所 琉球新報社

郵便番号 〒900-8525

那覇市泉崎1-10-3

©琉球新報社2019年

安里、高良氏ら届け出

参院選が公示

任期満了に伴う第25回参院選が4日、公示された。沖縄選挙区では、県選挙管理委員会の午前8時半の受け付け開始後、同11時現在、(届け出順に)新人でシンバホールディングス前会長の安里繁信氏(49)〓自民公認、公明、維新推薦、「オール沖縄」勢力が支援する新人で琉球大名誉教授の高良鉄美氏(65)〓無所属、新人で福祉施設非常勤職員の磯山秀夫氏(72)〓諸派、神奈川県在住、新人で辺野古商工会理事の玉利朝輝氏(60)〓無所属の4氏が立候補を届け出た。選挙戦は高良氏、安里氏による事実上の一騎打ちとなる見通しだ。

同日午前に届け出を終えた安里氏、高良氏の両候補は、支持者らを前に第一声を上げ、21日の投票に向けて選挙戦をスタートさせた。期日前投票は5日から始まる。沖縄選挙区の結果は玉城デニー知事の県政運営や来年の県議選に大きく影響を与えそうだ。

安里氏は午前8時半、浦添市の大平交差点で出陣式を開いた。安里氏は第一声で「私は政府の代弁者として国会にいくつもりはない。沖縄のプライドを懸けて沖縄県民の思いに添えていくために、も沖縄の声を政権のど真ん中につけていく。令和最初の選挙から我々の新しい沖縄の政治をつくっていく」と訴えた。

高良氏は午前10時、名護市の瀬嵩の浜で出発式を開いた。高良氏は第一声で「糸数慶子さんの『平和の一議席』を守り抜くのが私の使命だ。今回の選挙の最大の争点は辺野古新基地建設問題だ。私は辺野古の海を埋め立てるのを絶対に許せない。国政の場で安倍政権と対峙し、しっかり訴えていく」と強調した。

参院選は昨年9月の知事選後、初の全県選挙で、令和最初の国政選挙となる。米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に伴う新基地建設の是非や普天間の危険性除去の手法、沖縄振興の方向性となる次期沖縄振興計画の在り方などを争点に、激しい論戦が繰り広げられる見通しだ。



出発式で第一声を上げる高良鉄美氏＝4日午前10時25分ごろ、名護市瀬嵩



出陣式で第一声を上げる安里繁信氏＝4日午前9時すぎ、浦添市の大平交差点